

2013年度活動報告

はじめに

設立から4期目となった2013年は、基幹事業へ資力と人材を集中することを第一に活動しました。会にとっては、2013年7月17日に認定NPO法人としての認証を受け、優遇税制が受けられるようになったこと、フォスターホースが5頭増え、2頭が亡くなったこと、引退馬ネットのサポート団体が大幅に増えたこと、そして引退馬連絡会の立ち上げが具体的に動き始めるなど、動きの多い一年となりました。

1)馬と人のふれあい事業

「馬と人のふれあい事業」は、引退馬協会の根幹事業であるフォスターペアレント事業と表裏一体となっています。「馬と人」の関係を身近にしていく「ふれあい」は、前身の「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」の時代からもっとも大切にしていることのひとつです。

① 「FHと過ごす日過ごす日」の開催及び騎乗指導と講習会

千葉県乗馬倶楽部イグレットにて、年に5回開催しました。騎乗や手入れなどを通してフォスターホース(以下「FH」)の温もりに直に接していただける、会員、一般の方を問わず、どなたでもご参加いただけるイベントとして定着しています。馬たちの日常や個性について語る馬房前トークでは、担当者から直接、馬について語ってもらうことで、FHへの一層の親しみを感じた方が多かったようです。また、8月開催時にはバーベキュー、12月開催時には忘年会も開催し、会員間の親睦を深めることができました。

騎乗体験では、トウショウフェノマが腰部の不安で乗れないため、ハリマブライト一頭では対応できなかったこともあり、フォローアッププログラムに参加中だったヒシブレンティ(譲渡後も馬主様のご厚意で参加)や、引退馬ネットのサポートホースのサーチエネミー、乗馬倶楽部イグレットの馬にも、関係者のご厚意で乗らせていただきました。



② 乗り方指導・馬の接し方講習会(含む安全指導)

「FHと過ごす日」以外の乗り方指導では、サマニターフの死、トウショウフェノマの腰部の不安で、乗ることができるFHがハリマブライト一頭になってしまいました。そのハリマブライトも小柄で背中が弱いこともあり、誰でも乗れるわけではないため、「FHと過ごす日」を除き、年間を通しての騎乗はほとんどありませんでした。「フォスターペアレント事業」の項で後述しますが、2013年度に入ってサマニターフが永眠したことにより、「誰でも乗れる」馬が不在となってしまいました。

尚、トウショウフェノマについては、調教スタッフによる健康保持のための乗り運動を除き、会員騎乗は正式に引退と致します。

③ 安全に接することができる馬」の調教(フォローアッププログラム)

本プログラムは引退した競走馬の新たな馬生を支援するための再調教プログラムで、安全に接することができるように馬と人の信頼関係を構築し、適性を見極め、譲渡先へ送り出すプログラムです。本プログラムを受講させたいと思っただ方が、本プログラムの実施施設(現在は乗馬倶楽部イグレットのみ)に移動する費用を負担、その方が譲渡後の見守りを行うというものです。

こうしたプログラムは海外の引退馬団体でも実施しており、譲渡先と譲渡馬のミスマッチを防ぐために大変有効であると考えています。2013 年度では 2 頭の調教と譲渡を計画、4 期生となるゲイボルグが茨城県の乗馬施設へ、5 期生となるヒシプレンティは個人の方に引き取っていただき、現在も乗馬倶楽部イグレットに繋養されています。

ただ、譲渡先がなかなか決まらず、プログラムの当初予算を大幅にオーバーしてしまったことが、今後の課題となりました。今後は速やかな移動ができない場合に備えて、余裕を持って予算を組む必要があります。

※2014 年度からは、事業内容をわかりやすくする為、「再就職支援プログラム」という名称になります。



4 期生のゲイボルグ



5 期生のヒシプレンティ

④ 馬の養老施設視察・作業ボランティアツアーの実施

10 月 19 日から 21 日の 2 泊 3 日で、会員 6 名、スタッフ 2 名で、ホーストラスト(鹿児島)にて実施しました。馬の健康チェックから、お手入れ、朝夕 2 回の餌やりなどに加え、馬房掃除や、石拾い、砂利入れなどの放牧地の整備、駆虫剤の投与等を行いました。かなりハードな内容もありましたが、ホーストラストの活動に触れることができ、参加された方々からはよい経験になったとの声が上がっていました。このツアーは今後も継続して実施していきます。



作業のあとは馬とのふれあいタイム

2)啓発事業

RHA 通信の発行や、インターネットをはじめ、さまざまな形で引退馬についての情報発信をしています。会の知名度を広めるため、そして引退馬についての関心を高めるために活動しています。

※「啓蒙」という表現は、事業名としてはふさわしくないということから、ここでは「啓発」に置き換えて記載しています。

今後、定款変更の手続きを踏んで「啓発事業」に変更します。

① 引退馬に関する各種広報活動

年度を通して、会のホームページを主に、facebook や twitter を通じて、フォスターホースやサポートホースの情報発信を行いました。特に SNS を利用した情報発信は、啓発のみならず、新たな入会者へ繋がりました。

② RHA 通信・活動報告書の発行・送付(印刷版・PDF 版)

正会員と賛同会員のうち、会報購読を希望された方に、7 月、8 月、1 月、4 月に季刊として「RHA 通信」を発行しました。また、2012 年度の活動報告は 2013 年 12 月にすべての会員宛に発送しました。

③ ハッピーライフプロジェクト

馬を行方不明にしないことを目的とし、馬の健康手帳につける「ハッピーライフカバー」の活用が始まりました。既に被災馬の譲渡時や、フォローアッププログラムを卒業した馬の譲渡時に装着しています。2014 年度に入ってから、競馬サイトで取り上げられ、今後の活用に向けての準備が具体的に進んでいます。

④ 被災馬支援活動記録集制作販売

被災馬記録集については、東日本大震災で被災した馬の支援活動の記録を残すため、「被災馬のきろく」として 2013 年度中の完成を目指していましたが、編集者との間で本の内容の方向性にぶれが生じており、再調整を行っています。この為、発行予定としていた 2014 年 12 月から、さらに 2014 年度内に再度延期をせざるを得ない状況です。

3)引退馬ネット事業

① 馬の引取り相談・サポート

② 引退馬繋養団体の引取り後の相談・運営サポート

③ 引退馬による「馬のいる風景」を守る取り組み

「引退馬ネット事業」は、引退馬協会の対外支援活動で、「馬のいる風景づくり」の一環として、引退馬の引き取りの相談を受けています。単発的な支援では、預託先探しや契約のサポート等を行っています。

引退馬ネットで継続的な支援を行う対象であるサポートホースは、2013 年度には新たに 6 頭 6 団体が加わりました。新サポートホースは、ヤマニンバッスル(トウカイテイオー産駒の会)、トウショウヒューマ(春風ヒューマの会～トウショウヒューマ応援団)、マイネルディンプル(マイネルディンプルサポータークラブ)、フナバシボンバー(フナバシボンバー「幸せのベー ♪」の会)、コテツ(被災馬コテツ・ルージュビクトリーの会)、セイントネイチャー(渡辺牧場里親会)です。

このうち、残念ながら引退レースを目前に控えたフナバシボンバーと、以前からのサポートホースであったマイネルスティング(マイネルスティングの会)が永眠しました。

サポート件数が加速度的に増え、引退馬ネット事業の負担が財政的にも人的にも大きな負担となってきたため、引退馬ネットの一部有償化を決定し、2014 年度を準備期間として 2015 年度より実施する計画となりました。

サポート馬・団体・繋養先一覧

サポートホース	サポート対象	繋養先
フジヤマケンザン	チームケンザン友の会(ファンクラブ)	北海道・吉田牧場
マイネルステイング	マイネルステイングの会(2013年度に解散)	(静内坂本牧場)墓碑
ブライアンズロマン	ブライアンズロマンの会	北海道・荒木牧場
チェリーサウンド	チェリーサウンドの会	鹿児島県・NPO法人ホーストラスト
エスケープハッチ	エスケープハッチの会	岡山県・吉備ひだまり牧場
サーチエネミー	サーチエネミーの会	千葉県・乗馬倶楽部イグレット
シャーベットーン	個人	鹿児島県・NPO法人ホーストラスト
ビッグゴールド	ビッグゴールドサポーターズクラブ	北海道・静内坂本牧場
ツルマルツヨシ	ツルマルツヨシの会	宮崎県・カウボーイアップランチ
ネーハイシーザー	荒木牧場功労馬サポーターズ	北海道・荒木牧場
現役馬(非公開)	非公開	—
ヤマニンバessler	トウカイテイオー産駒の会	茨城県・常総ホースパーク
トウショウヒューマ	春風ヒューマの会～トウショウヒューマ応援団	北海道・渡辺牧場
マイネルディンプル	マイネルディンプルサポータークラブ	北海道・ハッピーホースイン
フナバシボンバー	フナバシボンバー「幸せのペー♪」の会(2013年度に解散)	(静内坂本牧場)墓碑
セイントネイチャー	渡辺牧場里親会～まずはセイントネイチャーから	北海道・渡辺牧場
コテツ(ルージュビクトリー)	被災馬コテツ(ルージュビクトリーの会)	埼玉県・ときがわホースケアガーデン

※2014年度より、ハルウララ(春うららの会)、ダンツシンガー&ストロングフローラ(吉備ひだまり牧場おひさま会)が新たなサポートホースになっています。

④ 引退馬連絡会の設立により他団体との連携

「馬のいる風景づくり」の一環として、引退馬ネット事業にて実施しました。引退馬関連団体の横のつながりは以前から必要だと考えてきました。なかなか実現までに至りませんでした。北海道新ひだか町の養老牧場ローリングエッグスクラブ(代表 藤沢澄雄氏)と、2013年11月と2014年1月の2回にわたって、「引退馬連絡会」の立ち上げについて話し合い、2014年に立ち上げることを決定しました。

なお、引退馬連絡会の活動は、引退馬協会のすべての事業に関わるものである為、2014年度からは、「5つの事業から派生する事業」として、実施します。

4) フォスターペアレント(FP) 事業

FHが安定して元気に暮らせるよう会員制度で、FHを支える引退馬協会の根幹事業です。FHの繋養、里親制度の運営、FHに関わる情報発信はすべてFP事業となります。

- ① 引退馬の繋養を支える里親制度の運営
- ② 集いの場の提供
- ③ フォスターホースの預託(「馬と人のふれあい事業」に活用)

2013 年度では新規のFHを受け入れる方針を掲げ、8 月末にはエリモシック、10 月にエイシンバーリンのほか、11 月には被災馬FHとしてハーモニイトセチャン(競走馬名不明)、エナコ(トーホクエナジー)、コッチャン(トーセンクレイジー)の 5 頭を受け入れました。



左から、エリモシック、エイシンバーリン、ハーモニイトセチャン、エナコ、コッチャン

エリモシックについては、2012 年度のツアーで訪問させていただいたご縁から、新ひだか町三石の本桐牧場に管理をお願いしました。移動時に体調を崩していたエリモシックでしたが、本桐牧場の皆様の献身的な管理により、日に日に元気になっていきました。削蹄もFP会員の装蹄師さんが引き受けて下さいました。

エイシンバーリンは、メラノーマを患っている同馬を環境を変えずに何とか世話をしていきたいという丸村村下ファームに管理をお願いしました。エリモシックを迎え入れて間もなくでしたが、エリモシックも、エイシンバーリンもたくさんの方に応援していただき、新たな会員の入会につながりました。

被災馬 3 頭は、脚部不安により乗馬の道を断念したハーモニイトセチャンがまずFHに決まりました。移動待ちが長引いたので、その間の飼料代を管理先に支払いました。次にFHに決まったのは、凍結烙印のある馬の中で、パニックになってしまう気性から譲渡が困難だったエナコでした。エナコについては2012 年度から、FHにする道を摸索していました。そして、エナコがただ一頭、仲良くしていたコッチャンも引き離すのはかわいそうとの飼い主さんからの依頼で、一緒にフォスターホースになりました。このとき、馬運代や保証金などの出費で 3 頭を同時に引き取ることに不安があったため、譲渡先の飼い主が死亡したため引退馬協会に帰ってくる予定だったハーモニイヴィックウェーブをトレードする形を取りました。個々の馬の募集とせず、「被災馬フォスターホース」としたのは、引退馬協会が保護した「ハーモニイ」の冠のついた馬たち、左肩に凍結烙印(肉食処分してはいけない馬の印)がある馬たちは、いざという場合、引退馬協会できり取ることから、いつでも受け入れる体制を整えるため、まとめでの募集となりました。

被災馬だけがなぜ昼夜放牧なのか、差別ではないのか、とのご意見もいただきました。これから何頭ま

で増えるかわからない、相対的にまだ若い被災馬たちを繋養していくことの資金的な不安も当然ありました。しかし、それ以上に、自由に歩き回ることのできる環境は、こうした問題を抱えた馬たちにより作用があると考えました。前例は過去にいくつもあります。移動した上で、問題がさらに悪化するようなことがあれば、そのときに考えればよいとの思いでした。結果として、3頭はそれぞれに環境になじみ、コッチャンがいないとパニックになるエナコさえもが充実した日々を送っていました。

既にベテランとなったフォスターホースたちは、高齢化が進んでいます。ウラカワミュキ(33歳)を筆頭に、ナイスネイチャ(26歳)、セントミサイル(24歳)、トウショウフェノマ(21歳)、ハリマブライト(18歳)と続きますが、それぞれの馬たちができるだけ高い生活の質を維持できるよう情報収集に務め、必要な獣医療や飼養管理を預託先にはお願いしていきます。

フォスターホースとの別れ

悲しい別れもありました。2013年度に入って間もない6月20日、サマニターフが腸捻転により亡くなりました。12歳という、まさに充実期を迎え、どなたでも乗れる穏やかな馬として、多くの方に愛されていただけに、若すぎる死が惜しまれます。



サマニターフ

6月9日最後の「過ごす日」にて



エナコ
木の実をたくさんつけて

3月24日には、エナコがわずか6歳で感染症と思われる諸症状で治療の甲斐なく亡くなりました。エナコは宮崎大学で解剖いただきましたが、組織の壊死がかなり進行していました。病理検査に出しましたが、原因の究明には至らなかったとのこと。エナコの亡骸は茶毘に付され、今年9月27日に、繋養先の鹿児島県のホーストラストの共同墓地に納骨されました。エナコのお別れ会は来年3月21日～23日に予定しておりますボランティアツアーにおいて実施いたします。見学のみの方にもご参加いただける企画を考えておりますので、ぜひこの機会に鹿児島県のホーストラストを見ていただきたいと思います。

また、2014年度になってからではありますが、8月6日にエリモシックが、両肺出血による呼吸器不全で亡くなりました。

こうしたお別れが増えるのは、引退馬の終生繋養を行っている以上、避けられません。それぞれ唯一無二の素晴らしい個性をもった馬たちとの別れは大変悲しいものです。しかしながら、会としては、ここで立ち止まることなく、馬たちが与えてくれたものに感謝し、次に進まなければなりません。今後の課題として、会として、亡くなった馬たちをどのように供養していくか、多方面にご意見を聞きながら方針を決めたいと考えています。

④ フォスターホースに関わる情報発信

FP会員には、RHA通信を発行した4月、7月、10月、1月を除く計8回、フォスターホースレポートを発行しました。この他、会のホームページ、facebook、twitterでも随時、近況報告を発信しました。

⑤ フォスターホースカレンダー製作販売

2013年10月末から、「2014年フォスターホースカレンダー」を800部制作し、FP会員や関係者へのプレゼント分をのぞき一部500円で販売、すべて完売となりました。2014年度はフォスターホース達の写真を充実させ、部数も増やす予定です。

⑥ サマニターフを偲ぶ会

2013年11月16日に、サマニターフの預託先である乗馬倶楽部イグレットにおいて、「サマニターフを偲ぶ会」を開催。サマニターフのFP会員をはじめ、FHと過ごす日で騎乗したり、ふれあったりした会員が大勢が参加し、在りし日を偲びました。



5) 上記5事業から派生するその他事業

① 被災馬支援活動

今まで直接関わってきた、引退馬協会がいったん譲り受けて新しい飼い主さんに送り出した「ハーモニィ」の冠のついた馬たち、原発20キロ圏が警戒区域に指定され封鎖された後に移動した馬たちの見守りが中心となりました。獣医療費や、南相馬市の支援が終了した旧警戒区域の飼い主への飼料援助、移動補助を実施しました。

被災馬フォスターホースのハーモニィチトセチャン、エナコ、コッチャンについてはFP事業の項にて説明させていただきます。

6) その他の事業

引退馬協会が営利事業を行う場合、千葉と北海道の2都道府県に事務所があるため、法人税の支払いが千葉県と香取市、北海道と長沼町の4か所で発生します。現状では、税金に見合った収益が見込めないため、2013年度は実施しませんでした。今後は確たるメリットが期待できるまで、事業の実施を見合わせることにしています。

2014年度に向けて

2013年度は、会の体力を蓄える期間でした。少ないスタッフでの運営は個々のスタッフに大きな負担となっていることに加え、退職予定のスタッフがあるため、現スタッフのさらなる負担増が予想されます。人員増をしたいところですが、会費や寄付収入に依存している現在の会の体制では、人件費を捻出することが難しい状況のため、ボランティアのご協力を得る一方、2014年度は、事業内容や実施方法の見直しをしていく予定です。

一頭でも多くの馬の幸せな余生に関わることは、これからも変わりません。これからも多くの方々からのご理解とご賛同を得られるよう、活動していきたい考えです。